

TOPICS 4 医療DXについて



現在の状況 POINT

先月視察した山形県の鶴岡市立荘内病院では、日本を代表するがん専門病院である柏市の国立がん研究センター東病院の医師により、リアルタイムで手術中の映像を確認しながら指導する「リアルタイム遠隔手術支援モデル確立プロジェクト」などが行われていました。遠隔診療は、医師が情報通信機器を介して診療を行うオンライン診療のほか、専門医が情報通信機器を用いて診療の支援を行ったり搬送の必要性等を判断するなど、医師間で行われる「Doctor to Doctor」の取組も効果的であると考えています。脳卒中診療に関連する遠隔医療であるTelestrokeについては、日本の脳卒中学会ガイドラインで血栓溶解療法「t-PA」における遠隔医療のモデルが示され、一定の要件のもと国においても診療報酬で評価されています。特に、脳卒中のような専門的かつ迅速な判断が必要となる診療では、人的資源の有効活用や遠隔診療の活用を進めるべきと考えます。

Check! 医療DXとは

全体最適された基盤（クラウドなど）を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えることです。

Dx（でいーえっくす）は、診断を意味する医療業界の略語。診療録・薬歴・看護記録などを記す際に使用されます。



💡 すみの意見・要望

脳卒中診療体制は、複数の医療機関の共同作業であり、同時に、消防本部や大学等との共通認識で構築していく必要があります。県のリーダーシップが不可欠です。まずは、循環器病対策推進協議会において県内の医師少数区域（山武長生夷隅と君津）における脳卒中診療機関を集め、telestrokeの活用について議論を行うなど、調査、研究を要望します。

Q 脳卒中のt-PA治療における遠隔医療の活用について、県ではどのように考えているのでしょうか？

A 疾病や治療の内容により、専門的知見を持つ医師が、対面診療を行う医師を遠隔からリアルタイムに支援するなど、「医師と医師との間で実施する形態の遠隔医療」の活用は、医療資源の少ない地域においても専門的な医療が効率的・効果的に行えるなど、医療の質の向上に寄与することが期待されています。今年度の診療報酬改定では超急性期脳卒中加算の要件が見直され、医師と医師との間で実施する遠隔医療を活用したt-PA治療が新たに加算の対象となりました。一方で、その導入には、実施医療機関による基幹施設との連携体制の構築や、対応する機材導入とその運用経費の負担も考慮する必要があります。県では、脳卒中の救命率向上を図るためのテレstrokeの活用の推進について、他県での事例も参考に、県循環器病対策推進協議会等の意見も伺いながら研究していく方針です。

Q 県立病院における若手医師の確保・育成のため、ICTやDXを活用すべきではないでしょうか？

A 若手医師の確保・育成については、多くの症例に接することができ、専門医からの指導を受けられる環境が重要です。現在、県立病院では他病院の専門医師を交えた遠隔カンファレンスを実施するとともに、手術中の様子を収めた映像を関係者間で情報共有し、医療技術の向上に取り組んでいます。次世代を担う若手医師にとってより魅力的な県立病院とするため、先進的なICTやDXの活用方策を検討してまいります。

また、若手医師の確保のためには、ICT、DXといった最先端技術を導入していることのアピールも大変重要と考えます。高度専門医療を提供している県立病院においても、ゆくゆくは遠隔手術支援などの最先端技術を導入していただき、当該技術を積極的にPRすることで、レジデント医をはじめ、次世代の若手医師のさらなる確保・育成に努めるよう要望します。

TOPICS 5 歯科衛生士及び歯科技工士の確保について



現在の状況 POINT

本県の歯科医療行政において、特に歯科衛生士、歯科技工士の人材不足は深刻な問題です。厚生労働省の調査によると、令和4年12月末現在、本県の人口10万あたりの就業者は、歯科衛生士が94.7、歯科技工士が15.1で、それぞれ全国42位、46位と下位の状況にあります。歯科のチーム医療を担う歯科衛生士と歯科技工士の人材確保は喫緊の課題です。

Q 歯科衛生士、歯科技能士の確保への県の取組みを教えてください。

A 県では、近年需要が増している在宅歯科診療などの専門的な知識・技術を習得するための研修を実施し、未就業の歯科衛生士の円滑な復職を支援するとともに、歯科衛生士の資質向上や継続的な就労を図っています。今後も、他自治体の事例を研究するなど関係機関と連携して必要な施策を検討してまいります。

💡 すみの意見・要望

県内の高校や中学校、小学校への啓発活動、職業体験のほか、復職支援研修事業も重要だと考えます。こちらは歯科衛生士だけでなく、歯科技工士に対しての実施も求めます。また、歯科衛生士や歯科技工士になるために進学する学生への学費援助や、県内の歯科医院や歯科技工所に就職を求めるような政策も行っていたきたいです。そのためにも、国の地域医療介護総合確保基金の最大限の活用を要望します。

TOPICS 6 新湾岸道路について



Q 地域の意見やニーズをどのように把握するのでしょうか？

A 本年12月にパネル展及びオープンハウスなどを開始し、地域とのコミュニケーション活動を行っていく予定です。多様な意見を丁寧に把握し、計画の早期具体化に向け積極的に取り組んでまいります。

💡 すみの意見・要望

「幕張の浜」、「検見川の浜」、「稲毛の浜」の眺望は地域の大切な資源です。是非、「海への眺望に配慮する」などの地域の声に耳を傾け、すばらしい道路を造っていただくことを要望します。

TOPICS 7 部活動の地域移行について



Q 人材バンクに登録する指導者について、犯罪歴などを確認するべきではないでしょうか？

A 県教育委員会では、地域クラブでの指導希望者が人材バンク「ちばクラサポ」に登録する際、犯罪歴がないことを申告するチェック機能を設けています。雇用時の面接への助言もしてまいります。

💡 すみの意見・要望

指導者による性犯罪等から子供たちを守るために、是非、人材バンクの登録のあり方についての研究をお願いします。また、採用時の、例えば日本版DBSの活用についての検討も要望いたします。

TOPICS 8 県営住宅について



現在の状況 POINT

美浜区の県営住宅は県全体と比較して外国人世帯の割合が多く、トラブルの声も届いております。外国人を受け入れる県として、社会や自治会、県営住宅の住まいのルールをしっかりと守らせ、入居規則への違反や著しい迷惑行為が認められた場合には速やかに対応すべきです。また、高齢化が進む地域コミュニティの維持のために、認知症高齢者や障害者などへの入居後の様々な対応を県としても適切に行っていく必要があると考えます。

Q 外国人入居者に関するトラブルへの対応について教えてください。

A 中国語・英語版の「県営住宅の住まいのしおり」の配布や、通訳者の同行のほか、本年度からは12か国語対応の外国人向け相談窓口について記載された千葉県国際交流センターのリーフレットも配布しています。今後も、自治会から相談があった際に関係者との話し合いの場で助言を行うなど、トラブル解消に取り組んでまいります。

Q 入居者が認知症高齢者や障害者の場合はどのように対応しているのでしょうか？

A 現地を訪問して入居者から話を伺うほか、必要に応じて市町村の福祉部門と連携を図ります。個々の入居者の抱える事情に寄り添いつつ、入居者が安心して暮らせるよう丁寧に対応していく方針です。

💡 すみの意見・要望

担当課の方が現地での話し合いの場に同席し助言することが、自治会への大きな助けとなります。県営住宅の設置者である県が入居者のトラブル防止に積極的に取り組んでいただくことを要望します。

県政についての皆様のご意見・ご要望をお聞かせください！

すみ隆仁 事務所

すみ隆仁

検索

〒261-0001 千葉市美浜区幸町1-2-2 桑田ビル3A ☎ 043-246-5066 ☎ 043-262-9930
✉ sumitakahitokouenkai@gmail.com 🌐 https://sumitakahitokouenkai.com/

ホームページ



Twitter



千葉県議会HP

